

# 新川通信

第 8 号

題字 佐藤 大作  
平成 27 年 2 月 16 日発行

## 巻頭言

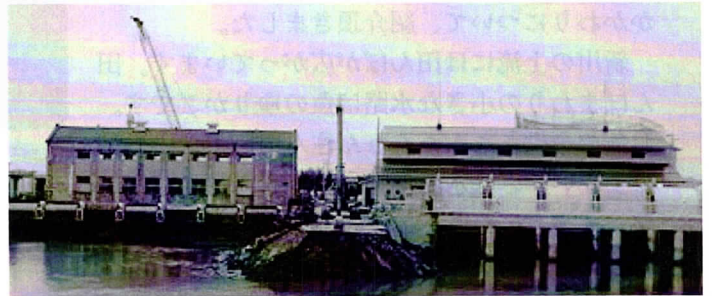
### 文化の伝承を果たした五郎左衛門公園

越後新川まちおこしの会顧問 大熊 孝

五郎左衛門公園が、2014年10月11日、新川右岸排水機場脇に開設された。この公園は、新川右岸排水機場の建替えに際して、その歴史を後世に繋いでいこうという趣旨で、越後新川まちおこしの会員が主体となって、農水省関係者と話し合い、自らコンクリートを捏ね、草刈りをして、開設にこぎつけたものである。この公園開設は新川開削から今日まで継承されてきた文化を引き継ぐものとして、高く評価したい。

新川は1820（文政3）年に開削された。もうすぐ開削200年となる。あと5年後には東京オリンピックとともに、新川開削200年祭を大いに祝いたい。それに当って新川開削の意義を、単に上流湿地帯の水田開発だけにあったのではないことを再確認しておきたい。

この越後新川まちおこしの会が発足するにあたって様々な話し合いがなされたが、新川開削は上流域には貢献しているが、内野町そのものにはあまり恩恵をもたらしていないという議論があった。しかし、新川開削工事の人足達が利用することによって色々な店が繁盛し、内野町それ自体が大いに発展した。そのことは「内野金蔵坂掘割くどき」にあるように明らかである。それまでの内野は、「内野の今昔」（2号、1984年8月、23頁）によれば砂ぼこりの多い寒村にすぎなかったと記されている。新川開削で、内野近辺の水路が海と直接つながり、鮭やウナギなどが遡上し、それを利用した料理屋などができた。さらには静田神社ができるなど、新川開削は内野の文化的発展に大



新川右岸排水機場新旧建屋 2012・5・9 撮影：大熊

きく貢献したと言っていい。このことは、2000年にできた大通川放水路と西川の立体交差付近には何もつくられていないことと比較すれば明らかである。かつての公共事業は近くの町の発展に貢献したが、近年の公共事業は目的とする機能は果たすが、地域に新たな恩恵をもたらすことはないのである。

新川右岸排水機場も、1953年に建設されたが、いわば日本が最もお金のない時代に強力なポンプを設備し、建屋も残っていれば登録有形文化財になりうる表情豊かな建物が造られており、独特な景観を作り上げていた。それが2年前に新しく建て替えられたのであるが、新しい建屋は表面がのっぺらぼうで、たとえ50年たっても文化財になりうる建物ではない。技術は進歩しているのであるが、文化の形成力という点では1953年当時の方が優れていたと言えるのである。そうしたかつての文化が消される中で、せめてポンプそのものを安置し、新川開削に貢献した伊藤五郎左衛門の名前を冠した公園が地域住民を中心として開設されたことは、消えようとする文化のともしびを後世に引き継ぐものであったと言えよう。

五郎左衛門公園開所式（2014・10・11）

撮影：笹川悦夫氏



普段はひっそりと静まりかえる新川に人々が集まりにぎわうのは嬉しいことです。毎年恒例となりました、生き物調査と川下りが7月26日に開催されました。

今年は、北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所（通称：しなちょう）の協力により、周辺の田んぼや水路に生息する生き物を水槽に入れて展示していただき、農業と地域の環境のかかわりについて、紹介頂きました。

新川の上流には田んぼが広がっています。田んぼまわりの小さな水路は魚のゆりかごです。お魚の子供たちがたくさん住んでいます。外敵の少ない小さな水路ですくすく育ちやがて川に戻って大人になります。農業が元気でないとそんな豊かな「めぐみ」は守れないとのことでした。

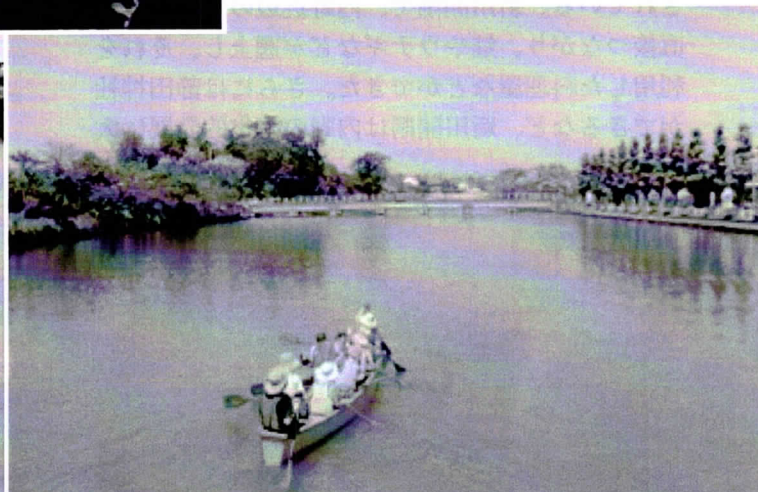
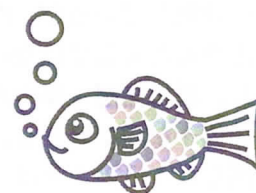
水槽には、タモロコ、モツゴ、フナ、ドジョウ、タイリクバラタナゴなど小さな魚たちが泳いでおり、子供たちが興味深そうに眺めておりました。一方、新川から取れた魚は大きいですね。大きなニゴイを子供たちが両手で楽しそうにつかんで持ち上げておりました。



川下りでは、新潟大学の学生さんたちのサークル「むらづくり研究会」や専門学校生などの若い人たちの協力もあり好評でした。

新川は運河のようにゆったりと流れる川です。川面の風を受けながら、周辺を眺めると木々が多くあり、自然の豊かさを感じることができました。

新川は、先人の思いが詰まった川です。そんな川とのふれあいが次世代の子供たちの感性を磨き、生きる力となってくれると思います。そんな新川をこれからも大切にしていきたいと思います。



思い起こせば丸山幸平前事務局長の悲願から始まり、農水省新川事業所への直談判！！その志を我々は引き継ぎました。当初新川事業所との交渉は難航していました。山岸俊男さんの折衝たるものは迫力に満ち溢れ役人達を圧倒しました！「あなた達は杓子定規の仕事ばかりやるのもいいが、せっかくこういう地方に来たのだから、地元の要望を取り入れたこういう仕事こそが、やり甲斐と達成感があり、一生心に残るものだ！」と恐らくこの一言が事業所の皆さんの胸に深く突き刺さったのではないかと思われました。それから西区役所と連携しての打合せはスムーズになり、当会の計画に沿って進むようになったのです。

いよいよ手作り公園の工事開始です。会員達が時間を見つけては集まり、慣れない作業が始まりました。まずはポンプ台座の位置出し・地盤整備・鉄筋組み立・型枠設置・ようやくコンクリート打設にこぎつけました。その後ポンプとシャフトが設置され公園内の芝貼り工事がおこなわれました。

梅雨が明け久しぶりに公園へ行ってみると一面が外来種の雑草、ブタクサ・セイタカアワダチソウに覆われ芝生は、見えなくなっていました。さっそく会員に呼び掛け朝から10名位で汗をかいての草刈りならぬ草抜き作業で、なんと集められた雑草が軽トラックに山盛り2台にもなり処分にも一苦労しましたが皆さんのおかげで公園の芝生は生き返りました！！

こんどはポンプとシャフトのペンキ塗り作業です、日本こども福祉専門学校の生徒さん達が20人以上も手伝ってくれ、慣れない手付きで刷毛を使い顔や衣服にペンキを付けながら綺麗に仕上げてくださいました。

西区役所よりポンプとシャフトの周りに立ち入り防止柵設置の指導があり擬木の柵を設置することになりました。コンクリート柵の確保から始まり、たまたま内野の知合いがコンクリート2次製品の製造会社の社長で相談したところ「ボランティアでやってるんだば取りにくければやるよ！」と嬉しい一言、早速小泉さんとトラックを借りて18個のコンクリート柵を引取ってきました。

穴掘り・コンクリート柵設置が済み擬木柵の取付が始まりました。午前中にメーカーから取付説明を受け午後から小泉さん山岸さんと私の3人で取付始めましたがなかなか上手くいきません、ようやく慣れ始めた頃にはあたりが暗くなり車のライトをつけて完成したのが夜の8時、くたくたでしたが、ようやく開園式に間に合うぞという気持ちの方が強く感じました。

秋晴れの10月11日(土)9:00から五郎左衛門公園と名付けた命名者にたいする感謝状と金一封の贈呈式から始まりました。なんと厳正に選ばれた命名者は二人いて一人は当会の事務局長の小泉さん、もう一人は昨年の1月に急逝された藤巻さんでした。松岡会長より感謝状と金一封が手渡された後に伊藤五郎左衛門の菩提寺である高山蓮久寺藤崎上人による五郎左衛門公園開眼供養が行われ無事に開園式を終了することができました。

11月末にようやく機場の廃材を利用したテーブルと腰掛が完成したので皆様暖かくなりましたらぜひお立ち寄りください！本当に皆様ご協力ありがとうございました。



五郎左衛門公園は、JR 内野駅から県道 2 号を高山インターチェンジに向かって約 1 km 行くと右手に新川右岸排水機場が見えてくる。公園は、その一角にある。

〔新川右岸排水機場の歴史〕昭和 20 年(1945)8 月日本は、終戦を迎えた。食糧増産のため、農林省直轄の大型農業水利事業が続々と着手された。その中の 1 つとして施工され昭和 28(1953) 年に運転を開始した。当排水機場の排水区域は、北は西川、東は中ノ口川、南は旧木山川、西は新川に囲まれた約 5500 ヘクタールであり、高山、槇尾、新通、黒崎、貝柄などが含まれる。

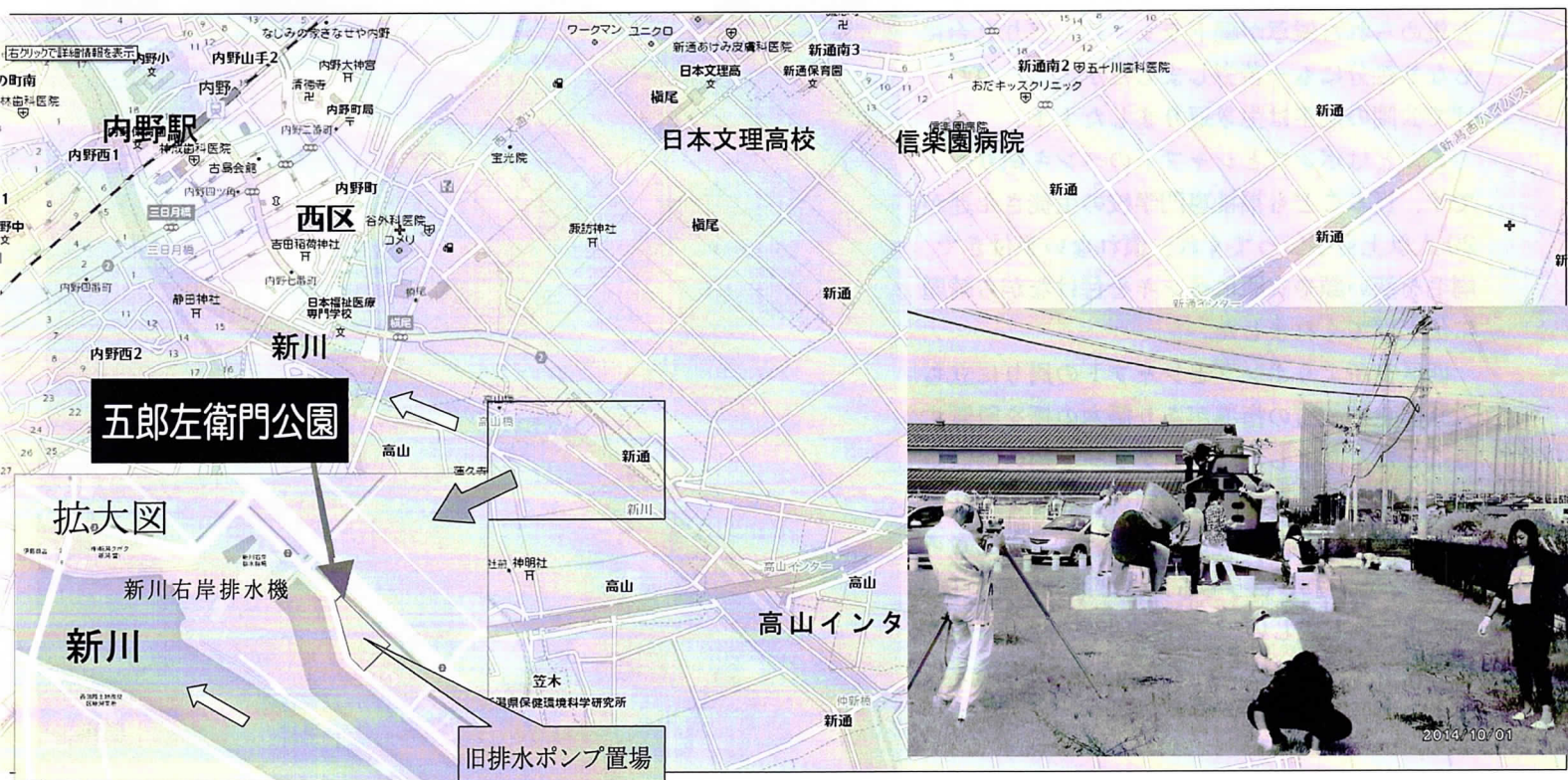
旧機場は、淡い黄色のレトロな趣があった。この機場は低い田園地帯の排水を半紀にわたって担ってきた。そして県営の排水機場の中で最古のもので、貴重な産業遺産であり地域の宝でもあった。しかし、50 余年を経過、老朽化したことから更新することになった。

当会及び高山自治会と内野地区及び中野小屋地区自治連絡協議会はその保存を望んだが、農水省、新潟市、当会等の協議の結果、その一部(ポンプ等)を公園緑地化したところに残すこととなった。その脇には、この地域一帯の歴史的、地理的な現状から新川開削の歴史、そして排水機場へとつながる地域の宝を広く市民から知ってもらおう案内板を設置して、地域の誇りとして後世に伝えるものである。

〔公園の管理〕このような経過をたどり次の改修まで約 50 年間公園として利用できることになった。そこで、草取りは、当会と高山老人クラブで、年間 8 回行いそのうち 4 回ずつ分担することにした。草取りの時は、会員の皆様もぜひご参加をお願いしたい。

当 番 表

	1~2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
越後新川 まちおこしの会	—	中旬	—	—	中旬	中旬	—	—	中旬	—	—
高山老人クラブ	—	—	第2土祭	—	—	—	盆	第4土祭	—	—	年末



国民栄誉賞を受賞した同級生と同じ星の下に生まれたことに喜びと誇りを感じます。大東亜戦争で東京が大爆撃ありとの情報で小学校5年生の時に疎開してきた遠藤さんもあまり身長がなく私と机が前後しておりました。授業中机の天板に下敷きを立て、鉛筆でドラムを叩くような仕草で歌を口ずさんでおり本当に歌が好きだったんだなあと今あの頃の懐かしい情景が目には浮かびます。また小学校の校門の前で越後平野を眼下に肩を組み「故郷」を歌ったあの日が蘇ります。

時には授業を欠席し小学校の裏山で、当時は松林がありそこより眺める日本海の荒波、佐渡ヶ島、林に吹く心地良い風、少年時代の原風景が作曲の原点だと言っておりました。私達は昭和22年内野国民学校高等科卒業ですが、教育改革で新制中学校が発足した年です。今は義務教育ですが、当時は希望すれば入学できたのですが、遠藤さんは家が貧しく、白線帽子に金ボタンの制服の進学を断念したわけです。少年時代に叶わなかった夢が後日「高校三年生」、「せんせい」等々となったわけで、もし中学校、高校に進学しておればあの名曲は生まれなかったと言っておりました。卒業後は日東紡績の工具、行商、門付けと言ってギターを弾き農家の玄関前で一曲歌って、お金や米を貰って家計を助け、厳寒の中で手が冷たく動かない時に自分の小便を手にかけて俺にはまだ情熱があると歌い続けたと後日「しょんべんはあったかかった」の本を発刊しております。その後家計を助けるために現在西区赤塚の農家へ作男として年一万五千円の前金を貰い住み込みで農作業に従事しておりましたが、どうしても歌手になりたい夢を捨てきれず、部落の夏祭りの夜にトランク一つ持って越後線に乗り上京しました。その時祭りばやしや聞こえ花火のあがっている農道に行く時の情景が「お月さん今晚は」の曲となり大ヒット致しました。♪こんな淋しい田舎の村で若い心を燃やして来たに♪数年後作曲家遠藤実が故郷に錦を飾って、内野小学校体育館へ歌手、楽団を引き連れて、白いスーツ姿で母校へ、自信に満ちてタクトを振る晴れ姿はまぶしい位でした。

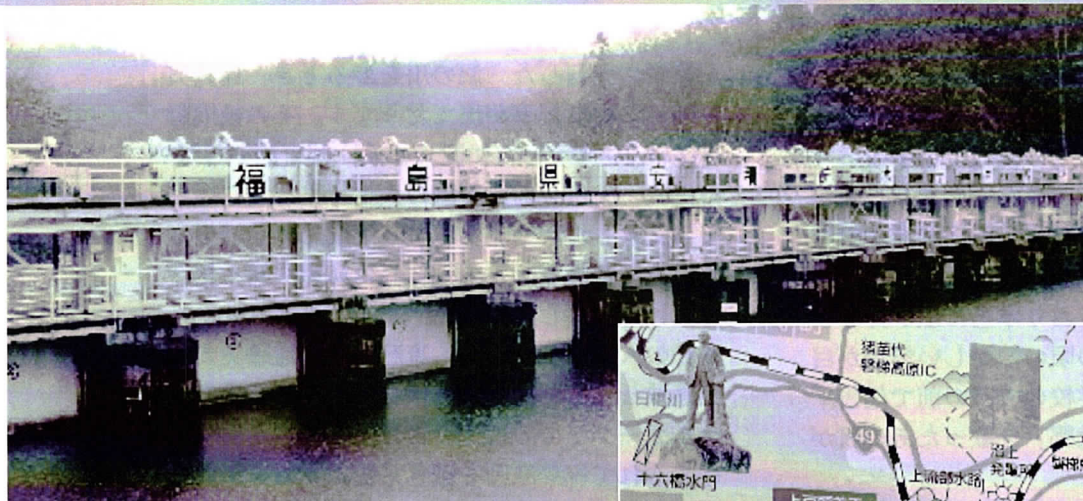
内野町をあげての歓迎に、町長、校長先生、商工会長等の名士の祝辞の後、私が同級生代表として挨拶、授業中に机に下敷きを立ててリズムを取っていた遠藤君だと信ずる事ができなかったが、今日の前に本物の遠藤君が、本当に嬉しい、嬉しいと挨拶した記憶があります。彼

が最後に発刊した「涙の川を涉るとき—遠藤実自伝」の本に記事が出ております。その後内野小学校30周年行事に記念講演、体育館いっぱい生徒、父母を前に苦難の人生行路を語り感動を与えました。交流も深まり平成二年紫綬褒章を受章、帝国ホテルの祝賀会に私達夫婦も招待を受けて出席しました。会場の来賓、歌手の方々、多勢の人脈の広さを見、流石日本の遠藤実だと実感致しました。平成五年私の黄綬褒章受賞ホテルオークラでの祝賀会には超多忙の所駆けつけてくれて祝辞激励を戴き来賓、友人と快く写真におさまってくれた事は、本当に喜びと熱き友情を感じ有り難く思いました。

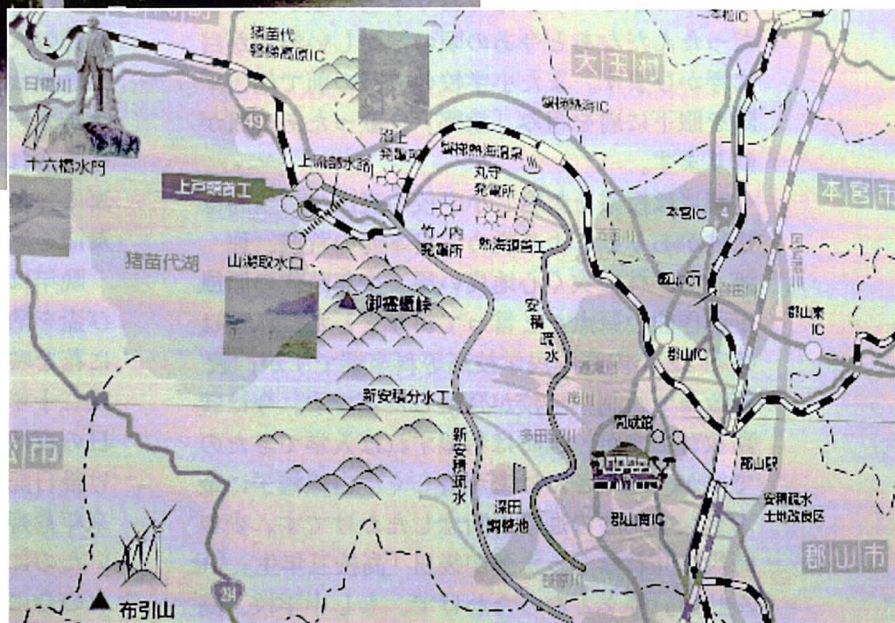
晩年は内野においで折には拙宅にも足を運び盃を酌み交わし少年時代の懐かしい思い出話に花を咲かせ友情の絆を深めておりました。平成二十年十二月六日七十六歳の生涯でした。当日の夜は、新聞社、テレビ局等数社の取材を受け後日記事、放映されました。少年時代の思い出、来年喜寿のお祝いに同級会に又会えんと思っていたのに…無念、残念でした。通夜と葬儀お別れの会に参列しました。数千人の方が故人を偲び、死を惜しんでおりました。最後まで故郷は新潟だ内野だと言ひ、愛し続けました。13メートルの大きな祭壇はお花で作った弥彦山と角田山の中間に遠藤さんの遺影が飾られ、故郷を愛し続けた思いが感じられました。世の為人の為、夢と希望と勇気を与えてくれた大作曲家遠藤実様の功績を讃え、偲び、今心静かに親友のご冥福を祈りたいと思います。

お花がいっぱい咲いているでありましょ極楽浄土で歌でも歌いながら私達を見守って下さい。今夜も遠藤さんの大好きなお月様が内野の夜空に輝いております。 合掌





十六橋水門



平成26年11月29日(土)～30日(日)

11月29日(土)朝6時21分、内野駅に降りた。あいにくと雨が降っている。きょうは「越後新川まちおこしの会」視察研修「安積疏水と東日本大震災復興現場を訪ねる」で福島→宮城→福島への参加をさせていただきました。

当日は雨模様・・・新川まちおこしの会で水に関する視察研修であるので、会に合って雨これもまたよき関係であったかも。

ところでこの度の研修行に際して会より「宮城県岩沼市玉浦地区の集団移転による復興まちづくり」3年の記録—NHKスペシャルの記録を参考として見せていただき、大いに「まちづくり」というものについて知ることができました。(岩沼の集団移転については後段で)

### <安積疏水・安積神社>

安積疏水に関しては全く無知で、はずかしい限りです。まずは安積を“あずみ”と読み、地名とも知らず。それと「疏水」も何と読むのかすらわからないありさま。後で調べて「疏水」とは、川や湖から水をひくためにつくった水路、灌漑、水運、水力発電などに使われる」とあった。この齢になって、新しい知識を得ることとなり、うれしい限りです。

### 安積疏水 (あさかすい)

最初に訪れた所は「十六橋水門」で、猪苗代湖から阿賀野川へ注いでいる所で十六の水門で水量を調節して流しているとのこと。またまたここで大恥を；阿賀野川への流れは猪苗代湖が溢れて流れ出た水が阿賀野川へと注がれているものと思っていたのです。そうでなく会津への用水治水を損ねることなく必要量を確保して、阿賀野川への注水を水門の数で調節して注いでいるということを知りました。確かに十六の水門がありました。

次に「安積疏水」の猪苗代湖からの取水口「上戸頭首工」を見学。そこより水路隧道をへて安積原野(福島県郡山市)へと注がれている。この疏水ができるまで安積原野は極めて水の便が悪く荒野であった。この灌漑によって一大穀倉地帯となったとのこと。この労力となったのが、戊辰戦争をへて、明治維新となり、その後各地で士族(武士階級の族称)の反乱が起り、その士族授産として国家プロジェクトで各地、特に東北、北海道などで開墾が進められた(北海道では屯田兵が知られている)郡山では水を導くための猪苗代湖疏水工事、開墾を進めるために全国9藩の士族が入植し開拓。(後記になるが郡山市開成館見学)

またまた驚き（目から鱗）安積疏水は技術指導としてファン・ドールン（オランダ人）の技術指導が進められ、3年の短期間で開削、（それも隧道として）それにより郡山も一大穀倉地帯となったとのこと。安積開拓の父と慕われたファン・ドールンの銅像は十六橋水門の脇に建っていました。その後沼上発電所、丸守発電所を見学し、郡山の開成館へ。この館は明治7年地元の大工たちによって建てられた擬洋風建築（西洋風）3階建の建物です。安積開拓や安積疏水の開削に関わった人々の紹介や資料などが展示されていました。周りには開拓官舎、開拓入植者の住宅があります。ゆっくりと見学するに値します。

開拓者の精神的なより所として安積神社が建てられました。開拓民の総意で伊勢神宮の御分霊を奉還してほしいと願い出て、明治9年に許可され、名前も「開成山大神宮」となり、以来開墾者の崇敬を集め、現在でも「東北のお伊勢さま」として慕われているとのこと。それを中心に公園も造成されています。いや。みごとな立派なものです。まちづくり中でランドマーク的な存在が必要と感じました。

#### <宮城県名取市閑上地区>

その後名取市閑上地区へ（前日も訪れた所とか。私は初めてです）3年9ヶ月前の東日本大震災の津波によってまち全体的に津波で流され、多くの犠牲者が出、壊滅的な被害があった地区です。日和山（大正9年人造築山、標高6.3メートル、町の中心場所に位置し、水運などの守り神）は山頂より2.1メートル上方まで水位が上がり、鎮守の富主姫神社が流失した地です。つまり8メートル以上の津波が押し寄せてきたということです。とても恐ろしいことです。また、公民館で避難した人たちが、津波が来るから3階以上の閑上中学校へとの声で、再度車で移動、車渋滞で中学校へ辿り着かないうちに津波が襲いかかり多くの犠牲者が出ってしまったということです。日和山から道路をはさんだ向かいの所には5メートルの盛り土がされていました。その高さまで町全体をかさ上げし、町を再建しようという計画だそうです。町全体は今のはがれきは撤去されていますが、荒野と化し、セイタカアワダチソウをはじめ雑草がぼうぼうと茂っていました。本当に建物があり、人が住んでいたのかと思わせる光景でした。（一見新興宅地計画がこれから進められると思わせる感じでした）

#### <閑上中学校>

閑上中学校へ。地震、津波の3月11日は午前中に卒業式が行われ、夢と希望を抱いて卒業していった生徒たちに津波が襲いかかり、14名の生徒が犠牲となった。学校の中には卒業式で使ったであろうアーチが残されていました。亡くなった生徒たちの事を思うと・・・涙が出てしまいました。

#### <鹽竈>

宿泊地塩竈へ・・・時間的に余裕があるということで、次の日の朝の散策予定地、宮城県多賀城市の多賀城趾と多賀城碑の見学をする。仙台平野を一望できる丘陵に立地されたというところ。特に建物はなく、広い石段と多賀城（政庁跡）を囲む堀、築地（ついで）堀と材木堀に囲まれており、いくつかの政務室、本殿などの建物の土台石が置いてあるだけの跡地ですが、広大で往時の面影が偲ばれました。

追；プラナリアを皆さん見たことがありますか？多賀城跡を見学時に、さすが理学部の先生、目のつけ所が違う。城趾の脇の小さな水の流れの落葉などの下で、プラナリアという小さな生物を採取していたのです。きれいな水にしか生息していないそうです。（プラナリアで検索してみてください）

11月30日（日）

朝、暗い内に散歩。散歩と言っても、加藤さんの運転で塩竈の卸市場を見学、その後鹽竈神社を散策見学。東北鎮護陸奥国一之宮として、仙台の人々、全国的にも名の知れた神宮です。紅葉も美しくなかなか良いところです。ゆっくりと散策してみたいところです。



5m嵩上げ土盛り

### <岩沼の集団移転地区>

ホテルに帰り、朝食をすませ、帰路につきました。最初に岩沼地区（前出しのDVDで見た集団移転を決めた地区の視察です。高さ7メートルを超える津波が押し寄せ、200戸以上の家が流され、150人の人が亡くなり、壊滅的な被害を受けた沿岸部の6つの集落の住民の人たちが主になって話し合いをすすめる、いち早く集団移転を決め、玉浦地区に新しい街づくりが進められていました。すでに移転した人たちもいましたし、公営住宅の建設も進んでいました。まさに“住民の住民による住民のためのまちづくり”がやられた地区です。

DVDによると、各地区の特色や人情を盛り込み、人の、地区の、絆や繋がりを持ち続けられるような地域を目指してのまちづくりであったと思います。

### <防潮堤>

海岸線へも足を延ばして噂になっている新しく建設中の防潮堤を視察。はごろもの松林と言われ、風光な松林だったのでしょ。その松林は津波によって多く倒されていました。浜辺の方に目をやると、波打ち際は見え、高さ7.2メートルの左右に長く続いたコンクリート製の防潮堤が見えるだけでした。上に上がって見ると、まさに万里の長城のように長く続いています。海辺の方はというと、テトラポットが積まれており、砂浜が見えないのです。以前は夏には海水浴客で賑わっていたであろうと思うと、何ともやりきれない感がしました。後で地元の人に聞くとよるところによると、海岸が見えない、もし災害が起きても様子がわからない様では判断しづらく、それよりも避難し易いような広い道路を付けるなり、避難するのに必要な高さの建物があった方がよほど良い・・・



新しい防潮堤

### <原発放射線被害のまち>

震災による原発事故により放射線量の高い国道6号線が平成26年9月15日に全線閉鎖解除となりました。しかし多くは下車が許されず、車からの現状視察でした。浪江町、双葉町、大熊町の国道6号線より脇道へ入る道路という道路にはバリケードが張られ、ガードマンが立っていました。建物、家は何の損傷も無いのに、今でも住んでいる様子。庭先のモミジはとても美しく紅葉しているのです。しかし一人一人いないのです。まさにゴーストタウンと化していました。この責任は誰が・・・



バリケードと警備員

### <四ツ倉より帰路へ>

車を止めることもできず何か空しさを感じながら、左右の光景を見て6号線を南下。恐ろしい痛ましい悔やましい福島第一原発を左に見て、楢葉町へ。四ツ倉で新大の学生の支援を受けて再興し干物業を営んでいるいいだ屋さんで、災害の事を伺いました。また本来ならば福島で採れた新鮮な魚介類を使っただけの商品を提供していたのに、今現在は放射能汚染のため地元の魚類は使えずに他県から取り寄せてやっているというお話。これも何とも切ない、痛ましい話でした。

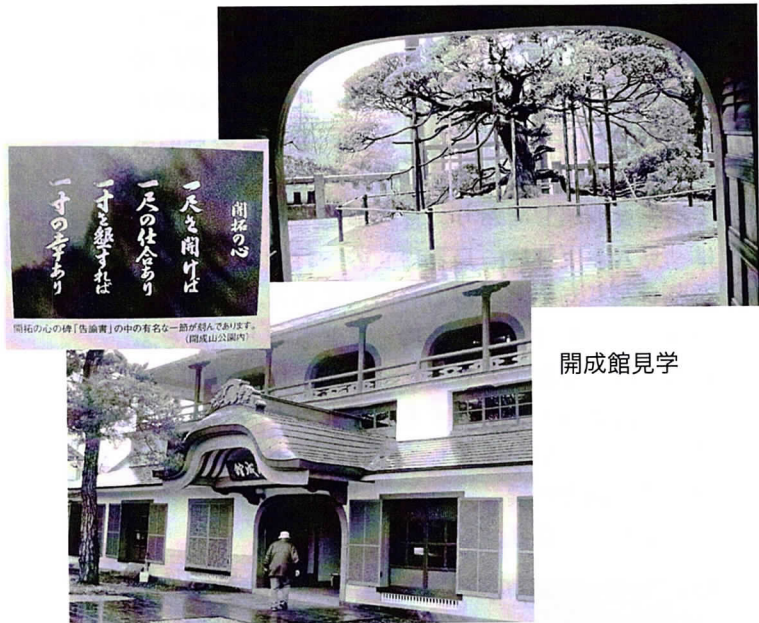
今回のこの研修視察行は、疏水事業のもたらした偉業を感じたことと。地震、津波の恐ろしさ、それに原発の恐ろしさをしみじみ感じ考えさせられた2日間でした。

小泉勇事務局長さんの細かい気配りと、緻密な企画と運転手をやっていただいた加藤功さん、それに参加された皆様の温かい気持ちに感謝申し上げます。



1 安積疎水施設見学—20%の水を太平洋側へ—  
利水は、生活にかかわる大問題で「水を制する…」  
の言葉が盛んに聞かれた明治初期に開拓された  
国の大工事である。日本三大疎水事業（・那須  
疎水・琵琶湖疎水）の1つで、高校の日本史の  
教科書にも10年程前までは取りあげられていた。  
そのせいか若い方は意外に知っており、見学の  
話に関心を示し、耳を傾ける方にも出会った。

工事はオランダ人技師の指導のもとで短期間  
に効率よく進められた結果、荒れ地で価値の低い  
郡山平野は、一気に日本一の大穀倉地帯（当時）  
になった。工事の現場では「一尺を開けば一尺  
の仕合あり・・・」のかけ声で作業員を激励し、  
多くの庶民の手作業による大変な苦勞の結晶で  
あったという。現地立つと、越後人として当時  
の水利や新川開削の工事等のことを思い複雑  
な気持ちになった。



開成館見学

2 放射能汚染の今—国道6号線等、バスの車  
窓から見える風景—車の通行は一応許可されて  
いるがバイク等屋根の無い車は×である。一面  
のブルーシートで覆われている地域。また、耕  
作放棄をした田畑には野草が繁茂し、その中に  
白鳥が群れ、主の住んでいない家にはカラスが  
戯れる等、一層寂しさを感じる晩秋であった。

上記の光景から堀口大学の詩（昭和46年）を  
思い出した。一部紹介  
堀口大学 放射能 人間に  
「君は原子炉に / 太陽を飼いならした」  
「君は科学の手で / 神を殺すことが出来た / おか  
げで君が頼れるのは / 君以外になくなった」  
「君はいま立っている / 存亡のわかれ目に」・

3 津波被災地復興の現場へ

津波被災地玉浦地区では公園や集団移転復興住  
宅地を歩き、被災者の話を聞くこともできた。

4 その他—旅行に参加して—

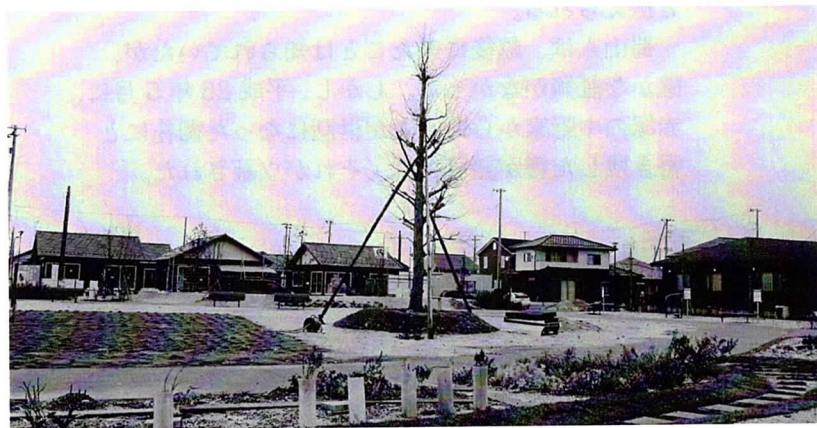
① 気になったこと：福島県内では途中の何ヶ所  
かの商店に立ち寄った。店で商品を手にとると「そ  
れは地元産ではありません」と、店の人は直ぐおっ  
しゃる。その声掛けは、私達が聞く以上に辛い言  
葉ではないかと、心が痛んだ。

② 嬉しいこと：会員の西尾氏の紹介で寄った店  
（いわき市）で新潟の若者が一生懸命に協力して  
るとの話を伺った。その中心メンバーに西区在住  
の私の知人もおり、帰宅直後に偶然お会いした。  
彼の顔が一層輝いて見えた。

③ 避難宅訪問：福島県から西区に避難されてい  
るお宅へ、後日小さなお土産を持ってお訪ねした。  
「新潟の人は誰も声を掛けてくれない」とよくおっ  
しゃり孤立傾向である。しかし、昨今は、知らな  
い人に声掛けが難しいご時勢である。気持ちがあ  
ってもキッカケを見つけ出さない方が多いと思う  
が、私は出来るだけ機会を作りお邪魔するように  
心掛けている。

5 研修旅行は贅沢な旅 当会の研修旅行は何時  
も盛沢山。バスで移動中、見学の前後に専門分野  
の解説（会員）が入る。私のような素朴な質問も  
OK。それはとても有り難い。現地見学のほかに  
地元の資料館にも寄り、見たり聞いたり・・・  
それは押しつけでなくマイペースOK。  
今回のドライバーは加藤功会員（一部小泉勇事務  
局長）。こんな素敵な旅、もっと大勢の会員の参  
加をお待ちしたいと切に思う二日間であった。

※旅程については百崎氏が詳細に記録。私は感じ  
たこと等を気儘に述べさせていただきました。



集団移転復興住宅地より

新潟・弥彦間をつなぐ北国街道（北陸道）、そのコースは時代の変遷とともに変化を続けてきた。

内野は、江戸中期までは純農村で正保2（1645）年の『正保越後絵図』には、槇尾村は記述されているが内野村の姿はない。江戸中期に作られた『越後国絵図』には、内野の姿が見受けられる。

一方、西側地域では、赤塚村や稲島村がそれ以前から在郷町として栄え、『越後国絵図』には、四角枠で囲まれて記述されている。この印は、在郷町を示しており、坂井村も同様である。内野村は、まだこの頃は一般農村（一部宿場機能もあったと思われる）として印されている。

特に赤塚は歴史が古く、西区内で最も古い。平安時代まで遡ることができ、縄文・弥生の遺跡も多い。赤塚が在郷町として大きく発展したのは、北国街道上、新潟・弥彦間のほぼ中間に位置し、佐潟や乳の潟といった潟や田畑から得られる産物を、旅籠や料理屋で提供できたという点である。

赤塚は、庶民の暮らしも比較的豊かであり、民衆文化が花開いた。特に俳諧は広く浸透していた。

北国街道を訪れた文人墨客には、美濃派（獅子門）歴代宗匠をはじめ、亀田鵬斎、蜀山人（大田南畝）、十返舎一九、鈴木牧之、良寛、高橋克庵、小尾保重、吉田松陰、土方久元などがいる。

美濃派宗匠には、各務支考や森森庵・魯松庵・曙庵・千秋庵、一味庵がおり、赤塚や松野尾・竹野町等で句会を開き指導した。その門弟である地元民は、松尾芭蕉の句碑を建立した。（赤塚「あかあかと日はつれなくも秋のかせ」、松野尾「すずしさやすぐに野松の枝のなり」、竹野町ごりん石「涼しさやすぐに野松の枝のなり」）。

亀田鵬斎は、松野尾の宿に滞在し多くの人々と交流した。その中でも良寛との出会いは、その後の彼の書体に大きな変化を与えた。鵬斎の碑は、大原と種月寺にある。松野尾の道標も鵬斎の揮毫と伝えられる。

蜀山人は、越後に来たことは知られていたが、確かな証拠がなかった。しかし、平成26年5月に、赤塚の中野家から蜀山人が世話になった御礼にと書き残した書が発見され、それが立証された。

十返舎一九は、文化11年に赤塚を訪れ、翌年に発刊された『越後新潟道中膝栗毛・諸国道中金の草蛙』で、赤塚を「にいがたをたちて、はまべどうふりを五りはかりゆきてあかつかといふところへいたる……」と紹介している。内野村には文政2年に訪れ、『滑稽旅加羅寿（こっけいたびがらす）』で「与板をたちて曾根村、内野の村などにいたるに、よろひがたといへる大沼の御普請あり…」と新川掘削工事の様子を紹介した。

鈴木牧之は、弥彦神社神官の高橋舎人光彦の紹介で、赤塚の割元庄屋石黒弾右衛門茂虎を訪ね取材し、『北越雪譜』で「天の網」として紹介した。

良寛は、赤塚の医師中原元讓と親交が深く、彼の元へ度々訪れた。その途次、松野尾にも訪れ有名な「一二三」や「いろは」の書が岩崎家に残る。良寛は赤塚の佐渡を眺め「こ之ぢ奈るあかつかが多能可毛春らも者可ひか者してぬるてふものを」と詠んでおり、赤塚の家々に彼の書が残っている。現在のところ内野へ訪れたことを証明する史料は発見されていないが、内野のとある旧家には彼の作品三点がある。現在の当主の親が趣味で掛軸を収集しており、その一部である。その書は「見人無下禅床 良寛書」の一行者、これは旧所蔵者が三島郡深才村の高頭氏である。また「このみやの もりのこしたに こどもらと あそぶはるひは くれずともよし 沙門良寛書」は、私たちが良寛のイメージする子どもらと遊ぶ姿と合致する。そして書簡として「先日草庵へ御来臨被酒一樽恭納受仕候..（中略）... 斎藤伊右衛門老」とあるものである。



松野尾 芭蕉の句碑

土方久元は、明治11年9月16日に明治天皇北陸東海御巡幸の折、同行したメンバーの一人で、後に明治天皇聖跡に書を揮毫している。赤塚の中原藤蔵宅（中原邸）や内野いちよう公園に彼の揮毫が残る。

出身文人としては渡辺鴻業（坂井）や筒井香山（木山）、会津八一（祖父が東山出身）、中原蒼園（赤塚）、中原元讓（赤塚）、伊丹芳春（大原）、巻菱湖（平沢）、山岸瘦石（舟戸）など。そのうち会津八一は、祖父が北山（東山）の庄屋畠山家の友五郎で、その長兄の東一郎は俳諧・篆刻・算術・茶道・築庭・剣術などに優れ、その徳を讃えた彰徳碑が東山に建っている。次兄の東三郎は、松野尾に分家し、その子の岱作が笹口姓を名乗り笹祝酒造を創設。祖父の兄弟の関係から、それぞれの家に八一の書が残っている。

赤塚では、平成24年12月と26年11月に「赤塚郷ゆかりの文人展」と題して赤塚に残る文人作品の調査・展示を行った。作品は2回展とも重複しないもので、延べ約700点近くが発見・紹介され、新潟大学教授岡村浩（鉄琴）氏の真贋のもと本物のみを対象とした。

内野にも、直接内野へ訪れ残した文人作品も多少はあるであろうが、江戸時代後期以降のものが多いと思われる。明治・大正にかけて趣味として収集されたものも多く残っていると思われる。また、寺院にも多くあると推察され、それは檀家が寄贈するケースが多いためである。

当地に直接関係する作品の中には、碑文の原本が掛軸や捲りの状態で残されていると推察される。実際、赤塚や他の地域でも、碑文の原本が掛軸や捲りで発見されている。もしかしたら、地域のどこかの家に新川暗闇の「流濕毓秀」の原本があるかもしれない。

こうした地域に眠る作品にスポットをあて、内野の地域活性化に役立てるのもあって良いと思う。例えば村上の屏風まつりとまでは行かなくても、各家や空き家などに展示したものを巡るという企画や、大学生との連携による企画（内野 de アートとのコラボとか？）など、可能性はあると考えられる。五十嵐地区、榎尾地区等の周辺地域を含め、今後内野でも文人展のような催しが行われることを期待したい。



土方久元揮毫の石碑 内野いちよう公園

越後新川まちおこしの会が発足してはや 8 年が過ぎようとしている。8 年前の発足のことを思い出しながら会が発足してやれたこと、課題としてまだ残っていることなどを考えてみた。

平成 20 年 1 月 23 日発行の第 1 号には、設立の経緯が書かれているので紹介する。

- 1) 内野地区自治連絡協議会への呼びかけ
  - 2) NPO 法人新潟水辺の会との連携
  - 3) 内野の今昔を語る会との連携
  - 4) 新川掘割記念館を地元で作る会の発足
  - 5) 西地区公民館「内野地域学」との連携
  - 6) 農林水産省・西蒲原土地改良区との連携
  - 7) 越後新川まちおこしの会設立
- となっていた。

設立前の呼び名は、新川掘削記念館を地元で作る会(仮)として公民館を通じ、「内野新川の歴史を知ろう」講座を開き、新川河口排水機場などを見学した。

平成 19 年 2 月 17 日(土)新潟西コミュニティーセンター大ホールに 60 名が集まり、「よみがえれ!泳いだ、食べた、歴史のねむる宝の川」を掲げ、設立総会と記念講演会を行った。



平成 19 年 2 月 17 日 設立総会で挨拶する佐藤大作会長

当時のチラシには、「新川と西川の立体交差など近代の文化遺産とも言える、新川の歴史とその流域で育かれた産業や文化について理解を深め、その環境を守りながら、さまざまな活動をおこない、この流域と周辺地域のまちおこしに貢献することを目的にした会」と書いてあり、主な事業として

- 1) 地域の“宝”を蘇らせる、啓発・情報発信
- 2) 新川まると博物館実現のため、排水施設等の、保存・資料館の建設、案内板の設置
- 3) 新川の水質調査・清掃活動
- 4) 新川に親しむ交流文化活動
- 5) 新川開削 200 周年事業

を挙げている。

その後、新潟市や河川環境管理財団の助成を受けて、会の旗や紹介チラシ、小冊子「越後新川開削」の情報発信や、先進地視察などを着実にやってきた。

また案内板の設置では、自主的にワークショップを開催し内容を参加者の意見で決め、それを新潟県に作っていただいた。翌年の「水と土の芸術祭」では、「第 1 回 川の立体交差サミット会議」及び「新川普請まると博物館」の開催を実施した。

藤巻さんが取り組まれた洗堀では、「魚の住める洗堀」をスローガンに洗堀の測量調査、そして浄化のために冬場のみ西川の水をポンプで汲み上げ洗堀へ流した。その後 EM 菌、EM 団子の投入を行い、洗堀を確実に良くするとともに洗堀の認知度を上げていった。

丸山前事務局長の悲願であった右岸排水機場の保存では、新川右岸公園整備と形は変わったが、「五郎左衛門公園」としてこれからも新川を見守ってくれている。また、新川屋外音楽祭、新川一斉清掃、新川健康 & クリーンウオーク作戦の実施は、丸山事務局長の熱意で始まり毎年開催されている。

この他、毎年の行事となった「新川の水質調査」、「新川川下り」、「新川生物調査」、「新川まると博物館」の開催、「新川と同じようなドブ川再生」、「新川のような川の立体交差地」や、「悪水などで苦しんだ場所」への視察など、越後新川まちおこしの会でこれからも続けて欲しい行事である。

新川の歴史から学び、新川の魅力を高め、新川流域と地域住民に参加していただく「まちおこし活動」を今後も続けていかななくてはならない。多分その鍵となるのが 5 年後の「新川開削 200 年祭事業」であろう。

この 8 年間で越後新川まちおこしの会の発起人で、初代事務局長の丸山幸平氏、初代会長の佐藤大作氏、世話人の鈴木徳義氏、同じく藤巻英弥氏などが鬼籍に入られた。皆さん、5 年後の「新川開削 200 年事業」を彼の地から見守り、私たちに叱咤激励して下さい。



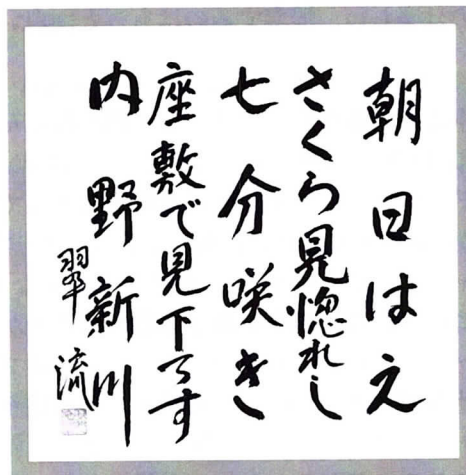
平成 24 年 6 月 18 日 新川一斉清掃にあつまった方々

新潟海岸バイパスが開通し、本年11月に5年目を迎えます。2015年本年は羊年。

5年先、2020年は、新川開削200年目になります。これは、先人の知恵・人力による世紀の大工事、底樋、踏み車を用いて完成しました。通水は、文政3（1820）年。工事費は、計5万3714両、人足は延べ165万2700人。

さて一般国道402号「新潟海岸バイパス」は新潟市から柏崎に至る道路であるとともに新潟市の都心と周辺地域を結ぶ東西方向の主要幹線道路です。長年地域の住民が待ち望んでいました。新しい道路橋の名称募集があり私は、応募しました。応募総数958通。

名称は、「内野新川大橋」に決定しました。私を含め名称命名11通。この名称は、内野の歴史ある新川に架かる橋の名称としてふさわしく、分かりやすく覚えやすいとの評価でした。



笹川 悦夫

一般国道402号事業経緯は、昭和59年新潟県により事業着手。用地供用、平成15年道路橋着手。平成16年10月23日中越地震発生。一時中断、平成22年「内野新川大橋」完成。27年の長年を費やしての完成であります。平成22年11月27日全線の開通。暫定2車線。

「内野新川大橋」開通記念式典。会場は、新潟市西総合スポーツセンター。内野中学校吹奏楽部演奏、開式式辞挨拶、来賓祝辞挨拶、衆参議員や県市各議員挨拶、工事経過報告。

久寿玉開玉。午前11時快晴に恵まれ、大型バス4台に「内野新川大橋」へ向かいました。オープニングセレモニー、テープカット、親子三代渡り初め。

「内野新川大橋」より日本海を眺める佐渡ヶ島、大佐渡、小佐渡を目の前に間近に迫り、橋上よりの景観は日本百景に値するでしょう。日本海へ沈む夕日が美しい道路として「日本海夕日ライン」の愛称が付けられました。遠景は、素晴らしいです。観光橋のあかしになりましょう。観光道路としての側面を併せ持っています。

～新しく架かる橋の名 応募せり  
「内野新川大橋」決まる

悦夫

## ● 聴くのは楽しい、演奏するのはもっと面白い

70に手が届く、いい歳して、なしてそんなに音楽に夢中になれるのかって？ よく訊かれるんです。

昭和33年、内野中学に入学した年に初めてブラスバンドができたのです。軟式庭球部に入っていたのですが、コートそばに音楽室があり、プープー、ヒャラヒャラと音がうるさい。「集中できねえなあ」とのぞきに行ったら、興味があると思われたのか、トランペットを「吹いてみろ」という。コツはブドウの種を吐き出すように吹くことだと。その通りに吹いてみたら、「プファー」と一発で音が出た。先生に「素質がありそうだから、やれ」と脅かされ、庭球部とのかけ持ちが始まったのです。それがトランペットとの出逢い。音楽を聴くのは楽しいけれど、演奏するのはもっと面白いことを知りました。進学した高校には、全国でも珍しい高校生のジャズバンドがあつてね。ディキシーランド・スタイルでしたが、校内の新入生歓迎会、文化祭、予餞会や、市内の音楽祭や施設への慰問、女子高の文化祭に呼ばれて演奏しているうちに、実力知らず、身のほど知らずの裏ニッポンの高校生は、「ジャズマンになるぞ」と舞い上がってしまったのです。

## ● 地域や高齢者施設でギターの弾き語り

入学した大学には、全国大学対抗バンド合戦で優勝するほどのジャズバンドがあつて、そこで活躍するのだと信じていました。たまたま、学生自治会主催の新入生歓迎会コンサートに行ったら白木秀雄クインテットが出演していて、メンバーの中にトランペットの日野皓正がいたのです。私より一つ歳上ですが、すでにプロとして活躍していました。

「たーまげた。こりゃあ、ダーメだ」

彼の演奏を聴いた瞬間に、そう思いました。あの若さでこの力量。世間知らずの田舎の高校生が、得意がってやってきたのとは格段に違う、超絶のテクニックと音。一生かかっても追いつけないし、かなわない。ジャズに挫折した瞬間でした。

ジャズをやるのは諦めたけれど、いところがハワイアンバンドに入っていたので、メンバーにつき合っただけでギターや歌をやっているうち、自己流でギターの弾き語りをするようになりました。新宿の歌声喫茶で覚えた歌を、学生寮へ帰ってみんなで歌ったりしてね。フリーライターになってからは、六本木や赤坂の店でバイトしたり、ライブもするようになりました。レパートリーは、文部省唱歌、ロシア民謡、フォークからJポップス、昭和歌謡まで250曲。3年前に内野の実家に戻ってからも、母がお世話になっている施設や公民館、地域の自治会などの会合に呼ばれて演奏を続けています。

## ● 演奏者と聴衆と一緒に盛り上がる音楽祭

プレイすることのすばらしさ？ 好きな曲を演奏して、自らが楽しむだけでなく、聴く人も楽しくさせられることかな。プロであってもアマチュアであっても違いはありません。そして、演奏者と聴衆が出会い、一体となって盛り上がる場がコンサートなんです。「新川野外音楽祭」だって同じです。

新川通信の第2号に、丸山幸平さんが新川野外音楽祭が誕生したときの顛末を書いておられました。

公民館で活動している音楽団体の発表場面が秋の芸能祭だけではもったいない。越後新川町おこしの会の活動と結びつけて野外音楽祭をやれないかと提案し、7年前にスタートしたのだとか。以後、毎年、静田神社の境内で5月第3日曜日に行われ、プログラム内容も年を追うごとに盛況・多彩になって、初夏を告げるイベントとして定着しているようです。私は、一昨年はギター弾き語りで、昨年は司会者として参加させていただきました。

平成26年の出演者は、内野中学校吹奏楽部、ハーモニカグループ「オータムブロー」、新潟大学アコースティック音楽サークル「クレッシェンド」、新舞踊「内野ひしの実会」、漫才「のりちゃん&エミコ」、カラオケ(4グループ)、日本こども福祉専門学校の「よさこいソーラン」、西内野コミ協吹奏楽団、内野盆踊りを楽しむ会など100名を越えました。観客は150名。最後の「内野盆踊り」では観客も参加して、にぎやかに3ヶ月早い盆踊りで盛り上がりました。



## 新川開削劇に「五郎左衛門ありがとう」の歌

新川のことをもっと知ってほしい、内野という町の成り立ちを知ってほしい。伊藤五郎左衛門ら先人の新川開削にかけた情熱、執念を見えるものにできないか。そんな思いから、30分ほどの芝居に仕立てあげたのが、「掘った、通した！新川開削物語」です。小瀬小学校の先生方や日本こども福祉専門学校生がトライしていた台本を参考にして脚本を書き、ついでに、「五郎左衛門ありがとう」という歌も作ってしまいました。蒲原平野を舞台に、季節の移ろいを背景に五郎左衛門をしのぶ、小学生でも歌えるような構成になっています。芝居には村人が盆踊りを踊るシーンも登場するので、内野盆踊りを楽しむ会の松浦良治さんを招いて踊りや囃子の稽古をし、私も歌の練習を始めました。

芝居は、7月に高山の蓮久寺で、11月には内野中学校と内野小学校で上演しました。教室に引き上げる生徒たちが「グローザエモン、グローザエモン」と口ずさんでいる姿がとても印象的でしたね。これから小学校や中学校、地域で上演され、子どもから大人までが「五郎左衛門？ 知っているよ。ありがとうの歌も歌えるよ」といった状況になればいいな。新川野外音楽祭や芝居の上演を通じて、ゆる〜いつながりがもっともっと拡がればいいな。



## 五郎左衛門 ありがとう

詞・曲 古俣慎吾

角田山から 吹く風は  
ほんわか 春のおいだよ  
桜のつぼみも ふくらんで  
もうすぐ田植えが はじまるよ  
五郎左衛門 五郎左衛門  
あなたは どこへ行ったのか

キラキラ太陽 輝いて  
入道雲が 立ち上がる  
田んぼは緑の じゅうたんだ  
セミがうたつて 夏花火  
五郎左衛門 五郎左衛門  
あなたは どこにいるのやら

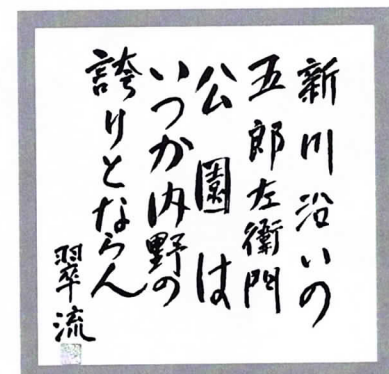
青空高く すみきつて  
くる〜り絵をかく 赤トンボ  
祭りばやしが はなやいで  
ずっしり稲穂が 垂れ下がる  
五郎左衛門 五郎左衛門  
あなたは 達者でいるのかな

蒲原平野に 雪が来て  
田んぼも すっぽり埋まったよ  
あったか コタツでぬくまって  
みんなで 春を待ってるよ  
五郎左衛門 五郎左衛門  
あなたも 一緒にぬくまろて

五郎左衛門 五郎左衛門  
あなたは いまも生きている

五郎左衛門 五郎左衛門  
新川は いまも流れてる

五郎左衛門 五郎左衛門  
ありがとう



笹川 悦夫

- 新川の 上の西川 赤橋を
- 民願い 村上領地 長岡の
- 新潟の 岡本太郎 水の精
- 洪水と 湯水予防 日本一
- 鎧潟 大潟田潟 祀りたい
- 奥手山 大萩橋へ 改名へ
- 皇太子 明仁殿下 立ち寄られ



「掘った、通した！新川開削物語」より

会員の皆様、お元気で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

大熊顧問から巻頭言「文化の伝承を果たした五郎左衛門公園」の原稿を頂きました。新川右岸排水機場は、ポンプや建屋があれば登録有形文化財となりうるものが、止むを得なくポンプとプロペラを保存した評価を明らかにしていただきました。

松岡会長から遠藤実氏の思い出を書いて頂きました。遠藤実氏の顕彰運動の一助になればありがたいと思います。

太田和宏さんから、かねての研究の一端「北国街道と文人墨客」を多忙の中無理してお願いしました。

加藤功さんは、「発足9年目となる・・・」に会の発足の事情と、毎年開催されている行事の他に特に、「新川の水質調査」、「新川川下り」、「新川生物調査」、「新川まるごと博物館」の開催、「新川と同じようなドブ川再生」、「新川のような川の立体交差地」や「悪水などで苦しんだ場所」への視察など、これからも続けて欲しい行事である。と述べておられます。特に5年後の「新川開削200年祭事業」の成功を望んでおられます。その他、古俣慎吾さん、西尾光弘さん、百崎進さん、笹川悦夫さん、大川聡さん、丸山久子さん、佐藤正人さん有難うございました。最後に今年の編集は、安富佐織さんが担当しました。

新川通信 -8号 年1回発行

(現在会員数105名)

- 発行：越後新川まちおこしの会
- 事務局：新潟市西区内野山手 2-18-8-6  
小泉 勇 電話 090-5498-8612  
E-mail:iikoi@r6.dion.ne.jp

#### 入会案内

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育かれた産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめながらさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに寄与することを目的に平成19年2月に発足しました。年会費1,000円です。ご入会をお待ちしています。